

# 市営水道の現状とこれから

## 第1回 市営水道の施設

習志野市の市営水道は、1949年(昭和24年)に事業を開始して以来、安定供給と健全経営を維持していくため、努力を続けています。しかしながら、長い年月の経過とともに、全国の水道事業者同様、様々な課題も顕在化してきました。その現状をご理解いただくため、市営水道の現状とこれからについて、4回に分けて掲載します。

今回は、市営水道の施設について紹介します。市営水道の歴史については、前回の広報あじさいに掲載していますので、そちらもぜひご覧ください。

### 今後の掲載予定

第2回 老朽化・地震対策の現状

第3回 更新コストと統廃合について

第4回 給水収益の推移

### 取水施設

市営水道の水源の約50%を占める地下水を汲み上げる施設です。市営水道では、19本の井戸を所有していますが、多くが昭和30年代から40年代に作られた施設で、完成から50年以上経過しています。(水源の残りの約50%は、江戸川で取水された水道水を購入しています。)



井戸のポンプ

### 浄水施設

地下水を塩素により消毒した後、鉄分やマンガンを除去し、良質な水をつくる施設です。第1給水場の浄水施設(昭和62年完成)がその一つですが、老朽化が進んでおり、また、一部の設備で現行の耐震性能を満たしていません。



第2給水場

第2給水場は浄水施設(昭和53年完成)と配水施設を兼ねている施設です。浄水処理が完了した後、藤崎エリアを中心に配水しています。

また、平成16年に配水施設の更新工事を行い、すべての水道施設に司令を出すコントロールセンターを整備しました。

### 配水施設

お客さまへ水道水を配水する施設です。

第3給水場(昭和53年完成)は、水の使用量が多い時間帯に東習志野エリアに配水しています。

第4給水場(令和2年完成)は、地震や停電にも強い施設です。応急給水栓や応急給水塔を備えており、災害時に重要な役割を担います。



第4給水場

### 水道管

水道管の総延長は約318km

導水管(約13km) 井戸(取水施設)から汲み上げた地下水を浄水施設に送る水道管です。

送水管(約5km) 飲むことができる状態にした水道水を配水施設に送る水道管です。

配水管(約300km) 配水施設からお客さまに水を届ける水道管です。

水道管のうち、基幹的な管は約25.9km、そのうち地震適合性を有しているのは、56.3%です。

消火栓(780基) 消防車など消火活動に使います。

これらが地震などで壊れると...

蛇口から  
水が出ない

ピンチ

消火栓から  
水が出ない

といったことも...

今回は、習志野市の水道施設について、ご紹介しました。水道施設の多くは老朽化が進んでおり、更新工事が必要です。また、水道管を含めて現行の耐震性能を満たしていない施設もあり、これらをどのように更新していくかが課題となっています。次回は、施設の老朽化と地震対策について紹介します。

今後も安定供給と健全経営を維持していくため、適切な水道料金水準の検討を開始します。検討に際し、利用者の皆さまのご意見を伺うための懇話会を設置します。この懇話会の公募委員を募集します。詳しくは、ホームページをご覧ください。 対象:18歳以上の習志野市営水道をお使いの人



TEL:047-475-3321(代表) ●担当/公営企画課